

令和7年度 「 芸術（音楽Ⅰ） 」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必履修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択履修科目	2	通年	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
音楽Ⅰ 改訂版 Tutti+ (教育出版)		スクーリングで配布するプリント,音楽Ⅰ Tutti+ 学習書(NHK 出版)		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
16(水4)	8	年2回	前期3回 後期3回	

○ 「 音楽Ⅰ 」の学習目標

さまざまなジャンルの音楽を総合的に学習することにより、音楽を生涯にわたり愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性を生かした表現や鑑賞の能力を伸ばす。

○ 学習内容の概要

1基礎……ソルフェージュ(基礎練習)として、譜面を読み取れる力をつける。
 2楽典……音階、音名、拍子など初歩的な知識を理解できるようにする。
 3歌唱……校歌から始め、楽しく、親しめる日本や世界のポピュラー音楽を中心に、歌唱する。
 4鑑賞……中世よりロマン派前期までの作品を取り上げ、その作曲家の活動と作品の内容をレポートにまとめる。楽曲は一般的な親しみやすい名曲を聴いていく。

スクーリングでは、みなさんの学習状況に対応しながら、進めていきます。

○ 芸術科からのメッセージ……(学習の態度・心構え)

音楽は私たちの生活において欠かすことはできないものです。最初は難しく感じることもあるかもしれませんが、自分の好みにかたよらずにバランス良く幅広く吸収して欲しいです。音楽を愛する心や感動する心を大切にしていきましょう！

◎ 学習計画

・スクーリング

スクーリングの内容はあくまで予定であり、変更することもあります。

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	4	20	日	導入	・レポート、スクーリング、テストの説明 ・音楽のしくみ①	第1回
2	5	25	日	声と音楽	・音楽のしくみ② ・校歌	第1,2 回
3	6	8	日	声と音楽	・イタリア歌曲「Caro mio ben」 ・中世、ルネサンス期の音楽 ・前期テスト対策	第2, 3 回
4	6	25	水	レポート解説	・復習および質問 ・前期テスト対策	第2, 3 回
5	7	6	日	楽器と音楽	・歌唱「翼をください」 ・楽器の分類、演奏形態 ・バロック時代の音楽	第2, 3 回
6	7	23	水	レポート解説	・テスト範囲で間違いの多い問題の解説等	第2, 3 回
7	7	27	日	声と音楽	・歌唱「優しいあの子」 ・復習および質問	第2, 3 回
8	8	24	日	声と音楽	・ドイツ歌曲「野ばら」	第2, 3 回
9	10	19	日	世界の音楽	・歌唱「少年時代」 ・アリアン、ヨーデル他	第 4 回
10	10	26	日	音楽史	・歌唱「故郷」 ・古典派の音楽	第 4 回
11	10	29	水	レポート解説	・復習および質問	第 5 回

12	11	9	日	音楽史	・喜びの歌 ・古典派の音楽(ベートーヴェンの音楽)	第 5 回
13	12	14	日	日本の音楽	・歌唱「君に届くまで」 ・民謡について ・後期テスト対策	第 4,5 回
14	12	21	日	世界の音楽	・ビートルズの音楽「Yesterday」 ・後期試験対策	第 6 回
15	1	11	水	レポート解説	・復習及び質問 ・後期テスト対策	第 6 回
16	1	14	日	音楽史	・歌唱「小さな空」 ・ロマン派の音楽 ・後期テスト範囲でレポートの間違いの多い箇所の解説	第 6 回

・レポート提出締切

回	月	日	曜日
1	5	28	水
2	6	25	水
3	7	23	水
4	10	29	水
5	11	26	水
6	12	24	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの合否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	レポートの第1回～第3回、教科書
後期	12～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	レポートの第4回～第6回、教科書

○ レポートについて

- ・レポートは教科書や学習書、スクーリングで配布するプリント(重要)を参考にすれば、ほとんど作成できます。空欄など不備が多いと再提出になります。
- ・わからない問題等はそのままにせず、スクーリングで質問して解決しましょう。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。
思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に歌唱、器楽、創作の学習活動に取り組もうとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

3つの観点について、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価を行い、学習を支援します。

(b) 評定

1年間の評定は、評価方法に基づいて総合的に判断して、5段階で評価します。

※シラバスの書式は

通信制>02_校務分掌>01_教務部>シラバス・年間計画>シラバス書式 内にあります

※昨年同様、レポートの印刷前に、教務まで 1 部お願いします。

※2月中旬ごろまでに pdf ファイルの提出をお願いします

通信制>02_校務分掌>01_教務部>シラバス・年間計画>R5 シラバス

※B4 版への印刷は印刷時にプロパティで割り付け設定（2ページ割り付け）で行うことができます

令和7年度 「 芸術（音楽Ⅱ） 」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必履修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択科目	2	通年	普通科	第1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
音楽Ⅱ Tutti+(教育出版)		スクーリングで配布するプリント		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
16(水4)	8	年2回	前期3回 後期3回	

○ 「 音楽Ⅱ 」の学習目標

音楽Ⅰでの幅広いさまざまな音楽活動を基に、日本や世界の音楽文化についての理解を深め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽を生涯にわたり愛好する心情を育てる。

○ 学習内容の概要

1基礎……音楽Ⅰの延長として、読譜力の向上につとめるとともに、リズム練習もやや高度なものに取り組む。
 2楽典……音楽Ⅰで学習した分野を発展させ、音程や和音の基礎的な知識、創作活動の初歩的な学習につなげる。
 3歌唱……音楽Ⅰで取り上げたポピュラー音楽に芸術歌曲が加わり内容が高まるとともに、オペラの中の歌いやすいアリアを歌唱する。
 4鑑賞……音楽Ⅰで学んだ内容をつなげて、ロマン派後期より現代音楽までの作曲家の作品に触れ、鑑賞した数曲をレポートにまとめる。

スクーリングでは、みなさんの学習状況に対応しながら進めて行きます

○ 芸術科からのメッセージ……(学習の態度・心構え)

さまざまな音楽活動の中から、生涯にわたり音楽とのかかわりに生かせるような、心の財産になるような作品を楽しみながら見つけてほしいと思います。

◎ 学習計画

・スクーリング

スクーリングの内容はあくまで予定であり、変更することもあります。

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	4	20	日	導入	・レポート・スクーリング・テストの説明 ・音楽のしくみ	第1回
2	5	25	日	声と音楽	・歌唱「見上げてごらん夜の星を」 ・音楽のしくみ ・詩と旋律の関係	第1回
3	6	8	日	声と音楽	・歌唱「Tomorrow」 ・いろいろな音楽に親しむ ・前期テスト対策	第2回
4	6	25	水	レポート解説	・復習および質問 ・前期テスト対策	第2回
5	7	6	日	楽器と音楽	・いろいろな音楽に親しむ ・器楽(ギター、キーボード)	第2回
6	7	23	水	レポート解説	・テスト範囲で間違いの多い箇所の解説	第2, 3回
7	7	27	日	楽器と音楽 西洋音楽史	・歌唱「島唄」 ・古典派の音楽 ・器楽(ギター、キーボード)	第3回
8	8	24	日	楽器と音楽 西洋音楽史	・歌唱「Pretender」 ・ロマン派の音楽 ・器楽(ギター、キーボード)	第3回

9	10	19	日	日本の音楽	・日本音楽の声、器楽	第4回
10	10	26	日	西洋音楽史	・歌唱「いのちの名前」 ・ロマン派の音楽(オペラについて)	第4回
11	10	29	水	レポート解説	・復習および質問 ・後期テスト対策	第4,5回
12	11	9	日	日本の音楽	・能のしくみ、四拍子 ・後期テスト対策	第4,5回
13	12	14	日	楽器と音楽 西洋音楽史	・後期テスト対策 ・近現代の音楽 ・器楽(ギター、キーボード)	第4,5回
14	12	21	日	創作	・簡単なメロディーの創作	第6回
15	1	11	水	レポート解説	テスト範囲で間違いの多い箇所の解説	第6回
16	1	14	日	西洋音楽史 楽器と音楽	・近現代の音楽、ポピュラー音楽 ・器楽(ギター、キーボード)	第6回

・レポート提出締切

回	月	日	曜日
1	5	28	水
2	6	25	水
3	7	23	水
4	10	29	水
5	11	26	水
6	12	24	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの合否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	レポートの第1回～第3回、教科書
後期	12～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	レポートの第4回～第6回、教科書

○ レポートについて

- ・レポートは教科書や学習書、スクーリングで配布するプリント(重要)を参考にすれば、ほとんど作成できます。空欄など不備が多いと再提出になります。
- ・鑑賞では、まとめ方や参考にしやすい楽曲を説明します。
- ・わからない問題等はそのままにせず、スクーリングで質問して解決しましょう。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。
思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に歌唱、器楽、創作の学習活動に取り組もうとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

3つの観点について、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価を行い、学習を支援します。

(b) 評定

1年間の評定は、評価方法に基づいて総合的に判断して、5段階で評価します。

※シラバスの書式は

通信制>02_校務分掌>01_教務部>シラバス・年間計画>シラバス書式 内にあります

※昨年同様、レポートの印刷前に、教務まで 1 部お願いします。

※2月中旬ごろまでに pdf ファイルの提出をお願いします

通信制>02_校務分掌>01_教務部>シラバス・年間計画>R5 シラバス

※B4 版への印刷は印刷時にプロパティで割り付け設定（2ページ割り付け）で行うことができます

令和7年度 『 美術Ⅰ 』 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必履修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択必履修	2	通年	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
高校生の美術1(日本文教出版)		高校生の美術1 学習書(NHK 出版)		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
16(水4)	8	2回	前期 3回 後期 3回	

○ 「 美術Ⅰ 」の学習目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てるとともに完成を高め、美術文化についての理解を深め、個性豊かな美術の能力を養う。

○ 学習内容の概要

- ・絵画、彫刻、デザイン各領域の表現の基礎的な技術と見方を学び、対象に感動することの大切さを知る。また各領域にわたり多くの作品を鑑賞し、芸術家の感性に触れ自身の心の領域を広める。
- ・実技の実際は、手軽に取り組めるようなテーマを設定して、小中学校で慣れ親しんだ画材と技法を利用してなるべく多くの制作を体験する。
- ・色や形の基本的な性質や用具の正しい使い方を応用し、創意工夫をして表現に生かす。
- ・美術作品の鑑賞を通して得た知識を表現活動に生かす。
- ・現在の工業デザインの意義と成り立ちについて学習する。

○ 芸術科(美術)からのメッセージ…(学習の態度・心構え)

美術は人それぞれの完成に何かを訴えかける表現として成り立つものである。その美術表現の成り立ちを理解し、よりよい表現を目指して発想・構想の能力や表現技術を身につけよう。

◎ 学習計画 ・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	4	20	日	導入	授業計画の説明および学習の諸注意	No.1
2	5	25	日	デッサンの基礎	出席の取り方 RST についての説明	
3	6	8	日	実習	線を重ねる鉛筆デッサンの技術と効果のデッサンの意義	No.2
4	6	25	水	静物画視点	デッサン	
5	7	6	日	実習	画面のバランス〈つり合い〉とムーブメント〈動静〉	No.3
6	7	23	水	自画像の表現	静物画	
7	7	27	日	実習	自画像を観察して描く	
8	8	24	日	レポートの復習	自画像	
9	10	19	日	水彩絵の具の技法	水彩絵の具、アクリル絵の具の様々な技法	No.4
10	10	26	日	基本的な色彩学	色の混色、光の混合、色の三属性、色彩のバランス	
11	10	29	水	実習	水彩画	No.5
12	11	9	日	レタリング	文字のデザインと基礎	
13	12	14	日	実習	レタリング	No.6
14	12	21	日	色と形によるメッセージ	色彩のイメージ、暖色と寒色、色調	

15	1	11	日	模写〈2,3 ページの絵〉	動的な形、静的な形、色彩
16	1	14	水	美術と歴史	歴史の流れの中の美術の考察

・レポート提出締切

回	月	日	曜日
1	5	28	水
2	6	25	水
3	7	23	水
4	10	29	水
5	11	26	水
6	12	24	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出したり、レポートの
 可否を確認する前に次のレポートを出したりはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7月上旬頃～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	静物デッサン 〈鉛筆デッサン〉
後期	11月下旬頃～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	自画像 〈鉛筆デッサン〉

○ レポートについて

- ・レポートはスクーリングに出席し、講義を聴き、教科書、学習書を参照することによって作成できます。
- ・レポート作成の条件を満たしていないものは再提出となります。
- ・わからないこと、疑問は積極的にスクーリングの時間に質問して理解してください。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	創造的な美術の表現をするために、必要な技能を身につけている。 対象物をよく観察し、表現方法を創意工夫して、描写している。
思考・判断・表現	何のために絵を描くのかや、造形的な良さや美しさ、美術の働きなど について考えるとともに、美術に対する見方や感じ方を深めている。
主体的に学習に 取り組む態度	対象物や心の中に浮かんだイメージを素直な気持ちでうけとめるこ とができる。美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現および鑑 賞の創造活動に取り組もうとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

3つの観点について、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価を行い、学習を支援します。

(b) 評定

1年間の評定は、評価方法に基づいて総合的に判断して、5段階で評価します。

令和7年度 「美術Ⅱ」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択	2	通年	普通科	第1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
高校生の美術 2(日本文教出版)		なし		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
16 時間(水曜日 4 時間)	8 時間	年 2 回	前期3回 後期3回	

○「美術Ⅱ」の学習目標

造形的な見方、考え方を働かせて美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質能力を養う。

○ 学習内容の概要

- ・絵画、彫刻、デザイン各領域の表現の基礎的な技法と見方を学び、また美術作品の鑑賞を通して得た知識を表現活動に生かす。
- ・題材や設定については「美術Ⅰ」の美的体験の上に立ち、色や形の基本的な性質や用具の正しい使い方を応用し、創意工夫して表現に生かす。

○ 芸術科(美術)からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

美術は人それぞれの感性に何かを訴えかける表現として成り立つものである。その美術表現の成り立ちを理解し、よりよい表現を目指して発想、構想の能力や表現技術を身につけよう。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	4	20	日	オリエンテーション	授業計画の説明、諸注意。課題の概要の説明。	No.1
2	5	25	日	自画像の基礎、実習	鉛筆デッサンで人物を描くための基礎と実技指導。	
3	6	8	日	人物水彩画の基礎	水彩絵の具の技法(重色、ぼかし...)、デッサンの応用など実習。	No.2
4	6	25	水	同上実習		
5	7	6	日	風景画の基礎、実習	大気や光、奥行きや遠近法、風景のイメージなどを捉え、絵の具などの表現方法を創意工夫して表す。	No.3
6	7	23	水	同上実習		
7	7	27	日	前期学習の復習	レポート作品の振り返りで課題への理解を深める。	
8	8	24	日	前期学習の復習	レポート作品の振り返りで課題への理解を深める。	
9	10	19	日	構想画の基礎、実習	心でとらえたイメージなどを基に、単純化や強調、色彩などの効果を考え、構想を練る。	No.4
10	10	26	日	同上実習		
11	10	29	水	平面デザインの基礎、実習	単純な形や様々な色を使い、情報や雰囲気、感情を伝えるビジュアルデザインの基礎を学ぶ。	No.5
12	11	9	日	同上実習		
13	12	14	日	プロダクトデザインの基礎、実習	使う人の目的や用途、場面、行為や心情などを考えたデザイン活動をする。	No.6
14	12	21	日	同上実習		
15	1	11	日	同上実習		
16	1	14	水	後期学習の復習	レポート作品や後期の学習を振り返り、課題の理解を深める。	

・レポート提出締切

回	月	日	曜日
1	5	28	水
2	6	25	水
3	7	23	水
4	10	29	水
5	11	26	水
6	12	24	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの可否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7月上旬頃～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	鉛筆デッサン
後期	11月下旬頃～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	鉛筆デッサン

○ レポートについて

- ・ レポートはスクーリングに出席し、講義を聴き、教科書を参照することによって作成できます。
- ・ レポート作成の条件を満たしていないものは再提出となります。
- ・ わからないこと、疑問は積極的にスクーリングの時間に質問して理解して下さい。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・表現方法を創意工夫し、個性的豊かで創造的に表している。
思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。

(2)評価方法と評定

(a)評価方法

3つの観点について、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価を行い、学習を支援します。

(b)評定

1年間の評定は、評価方法に基づいて総合的に判断して、5段階で評価します。

令和7年度 「 書道Ⅰ 」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必履修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択必履修	2	通年	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
書道Ⅰ(東京書籍)		書道Ⅰ学習書(東京書籍)		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
16回(水4回)	通年で8回	前期1回 後期1回	前期3回 後期3回	

○ 「 書道Ⅰ 」の学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に対する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を身につける。

○ 学習内容の概要

前期に漢字の学習を行います。漢字の書体の変遷を正しく理解し、中国や日本の名品を臨書します。臨書を踏まえて創作につなげていきます。その他、作品鑑賞などを通して書に親しみます。後期に仮名の学習を行います。仮名の基本線を学んだあと、いろは歌や古筆の臨書を行います。その他、漢字かな交じりの書や実用書についても学びます。

○ 芸術科(書道)からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

道具は書道室内の物は貸し出しますが、持ち出しはできません。教科書やレポートは貸し出せないの持参をお願いします。レポート等やり方がわからないときは自己判断せず、スクーリングのときに教科担当者に遠慮なく質問してください。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	4	20	日	書写から書道へ	文房四宝、芸術科書道への理解	第1回
2	5	25	日	篆刻と落款	篆書、篆刻の基礎	第1回
3	6	8	日	漢字の臨書	書体の変遷、造像記の臨書	第1回
4	6	25	水	作品鑑賞	落款の位置、さまざまな書作品	第2回
5	7	6	日	漢字の臨書	王羲之と唐の四大家	第2回
6	7	23	水	作品鑑賞	知的財産権と創作活動	第3回
7	7	27	日	漢字の臨書	三筆と三蹟	第3回
8	8	24	日	創作	漢字の書	第3回
9	10	19	日	仮名の基本	細筆の使い方、基本線	第4回
10	10	26	日	作品鑑賞	変体仮名を読む	第4回
11	10	29	水	変体仮名	変体仮名の理解	第4回
12	11	9	日	古筆臨書	蓬萊切の臨書	第5回
13	12	14	日	実用書	ハガキの書き方	第5回
14	12	21	日	創作	さまざまな表現の方法	第6回
15	1	11	日	創作	漢字かな交じりの書	第6回
16	1	14	水	作品鑑賞	博物館・美術館・書道展の楽しみ方	第6回

・レポート提出締切

回	月	日	曜日
1	5	28	水
2	6	25	水
3	7	23	水
4	10	29	水
5	11	26	水
6	12	24	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出したり、レポートの可否を確認する前に次のレポートを出したりすることはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	前期レポートの内容およびスクーリングでの講話内容
後期	11月下旬頃～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	後期レポートの内容およびスクーリングでの講話内容

○ レポートについて

- ・封筒の表書きについても、評価の対象にします。自分の住所、氏名を堂々と丁寧に書いてください。
- ・教科名「書道Ⅰ」の「Ⅰ」を必ず書いてください。
- ・担当者名を確認し、必ず書いてください。記入漏れは返却処理の遅れる原因となります。
- ・実技問題の作品を同封し忘れないように注意してください。
- ・取り組み方によってA・B・C・D・Eの5段階で評価します。Eは不合格なので再提出をしてください。
- ・提出期限が設定されていますので、計画的に進めてください。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	書の表現方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技術を身に付け、表している。
思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	書の伝統・文化と豊かにかかわり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

3つの観点について、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価を行い、学習を支援します。

(b) 評定

1年間の評定は、評価方法に基づいて総合的に判断して、5段階で評価します。

令和7年度 「 書道Ⅱ 」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必履修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択必履修	2	通年	普通科	書道Ⅰ履修済みの者
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
書道Ⅰ(東京書籍)				
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
16回(水4回)	通年で8回	前期1回 後期1回	前期3回 後期3回	

○「 書道Ⅱ 」の学習目標

書の歴史をはじめ、より深く書を学び、芸術としての書の美を理解する。
表現能力を高めるとともに、書の創作と鑑賞の能力をのばす。

○ 学習内容の概要

前期の漢字の学習では、書のルーツである甲骨文字から、現代の書まで、順を追って学びます。
臨書や創作の実技のほか、作品鑑賞を通して書に親しみます。
後期の仮名の学習では、古筆の臨書や仮名の創作をします。
その他、漢字かな交じりの書や実用書についても学習します。

○ 芸術科(書道)からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

道具は書道室内の物は貸し出しますが、持ち出しはできません。教科書やレポートは貸し出せないの
で持参をお願いします。レポート等やり方がわからないときは自己判断せず、スクーリングのときに教科担
当者に遠慮なく質問してください。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	4	20	日	書体の変遷	書体の変遷の理解	第1回
2	5	25	日	篆刻と落款	篆書と篆刻	第1回
3	6	8	日	漢字の臨書	石鼓文・蔵法の習得	第1回
4	6	25	水	作品鑑賞	落款の位置、さまざまな書作品	第2回
5	7	6	日	漢字の臨書	礼器碑・波磔の習得	第2回
6	7	23	水	作品鑑賞	知的財産権と創作活動	第3回
7	7	27	日	漢字の臨書	集王聖教序・王羲之の書	第3回
8	8	24	日	創作	漢詩を書く	第3回
9	10	19	日	仮名の基本	単体と連綿	第4回
10	10	26	日	作品鑑賞	変体仮名を読む	第4回
11	10	29	水	変体仮名	変体仮名の使用	第4回
12	11	9	日	古筆臨書	高野切の臨書	第5回
13	12	14	日	実用書	ハガキの書き方	第5回
14	12	21	日	創作	さまざまな表現の方法	第6回
15	1	11	日	作品鑑賞	博物館・美術館・書道展の楽しみかた	第6回
16	1	14	水	創作	漢字かな交じりの書	第6回

・レポート提出締切

回	月	日	曜日
1	5	28	水
2	6	25	水
3	7	23	水
4	10	29	水
5	11	26	水
6	12	24	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出したり、レポートの
可否を確認する前に次のレポートを出したりすることはでき
ません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7月上旬頃～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	前期レポートの内容およびスクーリングでの講話内容
後期	11月下旬頃～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	後期レポートの内容およびスクーリングでの講話内容

○ レポートについて

- ・封筒の表書きについても、評価の対象にします。自分の住所、氏名を堂々と丁寧に書いてください。
- ・教科名「書道Ⅱ」の「Ⅱ」を必ず書いてください。記入漏れは返却処理の遅れる原因となります。
- ・実技問題の作品を同封し忘れないように注意してください。
- ・取り組み方によってA・B・C・D・Eの5段階で評価します。Eは不合格なので再提出をしてください。
- ・提出期限が設定されていますので、計画的に進めてください。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	書の表現方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技術を身に付け、表している。
思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	書の伝統・文化と豊かにかかわり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

3つの観点について、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価を行い、学習を支援します。

(b) 評定

1年間の評定は、評価方法に基づいて総合的に判断して、5段階で評価します。